



発行所 滋賀県行政書士会
 発行人 田中章五
 編集人 山口秀子
 大津市京町三丁目4-22(滋賀会館3階)
 発行日(月刊)
 平成16年5月10日

行政書士法改正のプロセスと意志決定(その二)

日本行政書士会連合会名誉会長
 滋賀県行政書士会名誉会長
 日本行政書士政治連盟相談役

盛武 隆

日行連の役員には三万七千人の組織を意思統一して、法改正を達成するまでの間、リーダーシップを発揮し、揺るぎない使命感を保持することが求められる。なぜなら法改正運動の遂行過程にはさまざまな問題が組織の内外に発生して、時として無力感、挫折感に苛まれるからだ。そこで法改正の目的達成に向け現在まで日行連が進めてきた法改正プログラムについて述べてみたい。

まず法改正の内容と目的を行政書士会と組織構成員である会員が周知することが大切である。それには、日行連は法改正項目の選定とその改正の目的が会員の意志を反映したものであり、組織の意志として機関決定したものであるという事を明示し、組織内の手続きを踏まえていることを明確にしておかなければならない。同時に組織内に十分な情報開示と説明責任を果たすことが求められる。誤った情報の伝播は、本来一つの組織体であるはずの日行連、行政書士会、会員が個別の解釈をもとに日行連とは異なる個別の政治活動を展開して組織内対立を生み出す。そしてその組織内の混乱が外部の不信を招き法改正の障害になるからである。

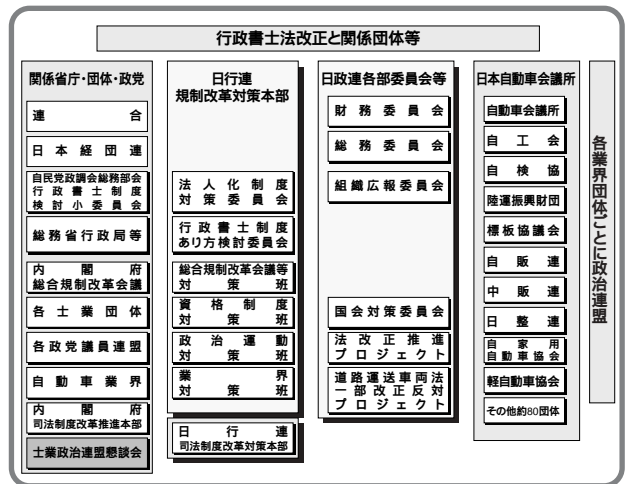
その解決策は日行連が行政書士制度の将来のあるべき姿を組織の内外に明示し、その具現化に必要な基盤整備項目を掲げ、段階的に時系列的にその項目の到達点を示すことである。

行政が自ら取り組み閣法として国会提出される他資格とは異なり、行政書士制度は議員立法であるがゆえに、まず政治活動があり、次に行政の協力を求め、議員が法案提出するところに手順の難しさがある。

以上のように法改正運動は国民のニーズを追い風とした日行連組織、行政、議員連盟等が三位一体となる仕組み作りと言うことが出来る。日行連は日政連に対して法改正の政治的運動の展開を要請するとともに、日行連・日政連がそれぞれの役割に応じた組織構成を行ってきた。行政書士業務は多岐に渡るため、図に示すように法改正を協議すべき業界や団体ごとに相対する推進部門の構築が行われている。(図は、全体の一部を示す。)

なぜ日行連・日政連は法改正推進のために他の資格制度とは大きく異なる組織構成が必要となるのか、部外者はもちろん会員各位にも疑問が生じるに違いない。それは行政書士業務が広範多岐に渡るため影響を被る業界が各分野に及びことに起因する。会員も業務内容により利害が異なり、この立場の相違が法改正に関する組織内の意見の対立を生む原因ともなってきたからである。

自動車業界の約80団体を構成員とする自動車会議所が反対運動を展開している。ここには「日行連改正対策特別委員会」が6年前に設置されている。行政書士法反対運動の(幟のぼり)が常に掲げられている状態を示している。そこでは行政書士業務に業界が参入するために「自動車業界による書類作成」



を実現するための「道路運送車両法改正」等が検討されてきた。これに対応するのが日政連に置かれた「道路運送車両法改正反対プロジェクト」である。

次に自動車業界の要請により、経済界では日本経団連や中小企業団体、さらには労働界では連合が反対運動を展開する。その関係者は数百万人に及び、それぞれの業界団体にはそれぞれの各党議員連盟がある。この重厚長大な組織に対応するのが日行連の「業界対策班」であり、その業界や業務の精通者が配置されている。

法改正を巡る攻防は近年新たな展開を見せている。法改正に代わる新たな手法の出現である。書類や電磁的記録の作成を独占業務とする行政書士であっても、自動車の保有関係手続きのワンストップサービスという電子申請システムで、会員が行政書士の名称を使用して代理人として申請手続きを行うことがシステム上で排除されれば、行政書士はこの分野の業務を実質的に失うことになる。日行連運輸交通部では行政書士の代理申請を可能とするために関係省庁や団体との協議を続け対応している。自動車保有関係手続きにとどまらず、行政書士の資格認証と代理申請問題は全ての電子申請手続きに共通の課題である。日行連の各業務部は関係省庁や民営化された特殊法人等へのシステム構築に目配りして対応しなければならない。

さらに法改正の内容によっては同業資格団体からも反対意見が表明される場合がある。これに関して日行連では「資格制度対策班」が資格団体に働きかけ、共通の協議機関の設置を呼びかけてきた。その成果として、各資格団体の政治連盟レベルで「士業政治連盟懇談会」が持ち回りで開催されるようになった。ここでそれぞれの法改正に関する事前情報交換が行われるようになったことは格段の進歩と言えよう。(以下次回に続く)